教員紹介

今回は、人間文化創成科学研究科自然・応用科学系准教授の松田雄二先生をご紹介します。松田先生は、大学院ではライフサイエンス専攻人間・環境科学コース、また学部では生活科学部人間・環境科学科にご所属です。

お茶大の自由な空気と時間を、是非楽しんでください。

Matsuda Yuji
松田　雄二

Q.ご出身、ご経歴などについて教えてください

生まれは埼玉の北坂戸という町で、小学校から東京の荻窪で育ちました。中学、高校は国立にある桐朋学園という中高一貫校で過ごし、その後東京大学に入学、大学では建築を専攻し、修士課程まで修了したのち設計事務所に就職しました。その事務所で病院や高齢者施設を設計しているうちに、もう少しいろいろ勉強したいと思うようになり、東大の大学院博士課程に戻り研究を再開しました。その後東京理科大学に助教として勤め、この2012年4月からお茶の水女子大学に准教授として呼んで頂きました。

Q.なぜ建築を専攻されたのですか?

小さいときから、ものをつくることが大好きでした。中学高校ではブラスバンドでフルートを吹いていたのですが、音楽もものづくりに通ずるものがあります。それも、ひとりでは無くさまざまな個性を持った人たちと「音楽」という一つのものを作ってゆくことは、とても刺激的でした。

そんなこんなで大学の進学先を考える際、実は音大に行きたいと思っていたのです。でもそこまで才能もないし、なんだか食べてゆくのも大変そうだなあと思い進路について悩んでいたところ、修学旅行で京都や奈良に行く機会がありました。そこで古いお寺や仏像を見ているうちに、ああ、建築っておもしろそうだなあとふと思い、建築を勉強しようと思うようになりました。

Q.研究の内容と、なぜそのような研究をするようになったのか、教えてください

建築の設計について、特に障害者や高齢者など、「普通」という視点では捉えることの難しいニーズを持ったユーザーのための建築設計について研究しています。現在は、特に視覚に障害を持った方の歩行環境や、身体に障害を持った方の居住環境についての調査研究を行っています。

なぜこのような研究分野を選んだかというと、今から思えば大学4年生の夏、1年間アメリカに交換留学した経験がきっかけだったと思います。留学先はカリフォルニア大学アーバイン校の環境デザイン学部（当時）というところで、英語はわりかし得意だと思っていたのですが、はじめの3ヶ月ほどは英語がまったく通じず苦労しました。そのとき、「ことば」という社会的、もしくは文化的条件が異なるだけで、物理的には同一の環境の持つ意味が変わり、ときにはとても使いにくくなることがあることを、身をもって体験することができました。そのような思いもあって卒業論文では聴覚障害の方の、修士論文では視覚障害の方の生活環境について、建築という側面から研究を行い、現在もその延長上で勉強しています。

私の研究は、「障害者」のためのものと言うよりは、マイノリティーの視点から都市や建築を見つめるものだと考えています。「あたりまえ」の環境が、ある視点に立つとまったく「あたりまえ」ではなくなるということを、日々とても新鮮に感じています。

Q.ご趣味などはありますか?

音楽を聴くのが大好きです。クラシックからジャズ、テクノまでなんでも聴きます。また、こどものころから本を読むことが大好きで、今でも毎日1冊くらいは読んでいるのではと思います。古典的な作家では夏目漱石や石川淳、最近の作家では奥泉光さんや水村美苗さんが大好きです。また、須賀敦子さんは、最近文庫で全集が発売されましたが、すべての作品がおすすめです。

そのほかにも、数年前からフィルムカメラに凝りはじめ、最近は二眼レフでも写真を撮り始めました。できれば現像・引き延ばしまで自分でやってみたいと思い機材を買い揃えてしまったのですが、なかなか時間がとれずにいます。

Q.お茶大の印象とお茶大生へ向けてのメッセージをお願いします

お茶大の印象ですが、正直赴任したばかりでよくわかりません。ただ、小規模で学生と教職員との距離が近く、恵まれた環境だと思います。でも恵まれた環境で、自分に刺激を与えハングリーに時間を過ごすのは、実はけっこう大変です。是非、意識的に外に出て行ったり、みんなと違うことをしてみたり、いろいろ試してもらえればと思います。

お茶大生のメッセージということで、松尾由美さんという作家さんを紹介したいと思います。私はほぼすべての作品を読んでいるのですが、最近お茶大の出身だと言うことを知りました。作風はSFとミステリを融合したような不思議な雰囲気なのですが、とても素晴らしいので是非読んでみてください。

文責：飯田薫子
（大学院人間文化創成科学研究科
自然・応用科学系准教授）